

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域産業の担い手であると同時にグローバル社会にも対応できる人材を育成する教育活動を展開し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

1. 基本的な生活習慣やルール・マナーなどの規範意識を身につけた自律できる生徒を育成する。
2. ものづくり教育・工業教育の基盤ともいえる基礎学力をしっかりと身につけた生徒を育成する。
3. 生徒のモチベーションを高め、教職員の技量の高位平準化を図り、ものづくり教育の充実を図る。
4. 社会人・職業人として自立し、豊かな心と人権感覚をもった、社会ひいては世界に貢献する多様な人材を育成する。

2 中期的目標

1 豊かな社会性をもった人間の育成

- (1) 相手を思いやる人権感覚豊かな優しい心を育成するとともに、社会の秩序・ルールを進んで守る規範意識を醸成する。
ア あいさつの励行や遅刻をしないなどの基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成に努める。
※9年前の平成18年度には7000を超えていた遅刻数は、平成26年度には562と大幅に減少した。今後も、より組織的な対応により600以下を維持する。
- (2) 美化・清掃活動の強化を通して、個々の生徒の規範意識の醸成と情緒の安定を図る。
ア 美化・清掃活動に全校で取り組む。
※生徒向け学校教育自己診断の「校内美化」に関する項目における満足度（平成26年度62%）を毎年1%引き上げ、平成29年度には65%にする。
- (3) グローバル人材の育成
ア ものづくりニッポンを海外に発信する素地を作るため、海外の高校生との交流を図り、グローバル感覚を醸成する。
※海外の複数の高校との交流を推し進める。

2 確かな学力への取り組み

- (1) 基礎学力の定着を図り、進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「分かる授業・充実した授業」をめざして授業改善に取り組む。
ア 学校設定科目「基礎教養」を設定し基礎学力の充実を図るとともに、授業公開や授業アンケートを通していっそうの授業改善に努める。
※「基礎学力診断テスト」における最下位層の人数を減少させる。
※生徒向け学校教育自己診断の「学力の向上」に関する項目における肯定度（平成26年度79%）を平成29年度までに80%以上にする。
※生徒向け学校教育自己診断の「授業の工夫」に関する項目における肯定度（平成26年度66%）を毎年引き上げ、平成29年度には70%にする。
※確かな学力の一層の定着を図り、就職一次内定率（平成26年度75%）を平成29年度には80%以上にする。また、3年後の離職率（平成26年度17%[判明分]）をH29年度には12%以下にする。

3 ものづくり教育の充実

- (1) ものづくりのための実践的な技術力の向上に取り組む。
ア 保護者からの支持も多い各種資格取得や検定試験をさらに推奨するとともに、そのための講習を充実する。
※資格の取得者や検定試験の受験者数（平成26年度1220人）及び合格率（平成26年度73%）を維持する。
- (2) ものづくり教育を充実させることで生徒のモチベーションを高め、各種連携を通じてものづくりへの関心とものづくりニッポンの担い手としての自覚をもつ生徒を育てる。
ア 成果発表の場やさまざまな競技会などに積極的に生徒を参加させるなど、ものづくり教育の充実を図ることで生徒のモチベーションの高揚に努める。また、特色ある工科高校の施設・設備や人材の活用を図り、「ものづくり教室」や「出前授業」を小・中学校や行政機関と連携して実施することにより、ものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒を育てる。
※成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数の合計（平成26年度12回）を維持する。
- (3) 地域産業連携重点型校として様々な活動を通して、地域への貢献と地域に根ざした学校づくりをめざすとともに、ものづくりを通して保護者との連携を強める。
ア 地域や地元企業の協力のもと、さまざまな活動を推進することにより、地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。
※地元企業の協力を得て、一つの学年の生徒全員が参加するインターンシップに取り組む。
※地元企業との連携と地域へのさらなる情報発信をめざして設立した「城工メッセ」をさらに推進する。
イ 保護者－学校が一体となった学校づくりを行う。
※保護者のものづくり教育への理解を深めるために、本校PTAと連携した事業に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○学校生活への満足度関連項目 「城工通学楽しいかどうか」肯定 生徒67%、保護者81% 「城工選択理由は？」生徒、保護者とも「就職に有利」圧倒的 →生徒、保護者とも満足度は高い。安定的な進路保障が重要</p> <p>○学習指導、資格取得 「授業はわかりやすいかどうか」肯定 生徒68% 保護者46% 「資格試験指導は充実しているか」肯定 生徒69% 保護者67% →生徒、保護者ともさらに満足度を高めるように工夫していく</p> <p>○進路指導 「就職・進路の指導・説明はわかりやすいか？」肯定 生徒84% 保護者80% →幹旋一次合格率維持等努力していく</p> <p>○生活指導、生徒相談 「校則守らせているか？先生は注意しているか？」肯定 生徒85% 保護者76% 「指導に納得しているか？」肯定 生徒70% 保護者73% 「先生は悩み、相談事聞いてくれるか？」肯定 生徒74% 保護者55% →生徒・保護者からの生徒指導への信頼は概ね良好。生徒相談体制の工夫をさらにしていきたい</p> <p>○保護者との連携 「教育情報提供の努力をしているか？」保護者56% 「家庭と学校の連携は十分か？」保護者63% →今後、メールリスト等を活用した情報提供等、工夫したい *来年度以降は“人権尊重の教育”に関する項目を追加する必要あり</p>	<p>第1回（平成27年5月27日） ・特色の明確化（差別化）や存在意義の確認など、教職員全員でしっかり考えていただきたい。KPIの設定再検討も必要。 ・進路保障のうち就職指導については学校幹旋一次内定率向上、離職率減などの追及をすべき（就職100%は工業高校ではよくある）。 ・何のために仕事をするのか？という根本的なことを遅刻指導等の生活指導とともに、しっかり考えさせることが必要。 ・城東工科高校を受験する生徒（中学生）への情報発信をさらに積極的する必要あり。</p> <p>第2回（平成27年10月29日） ・資格取得については、ただたくさん取得させる、ということではなく、企業が本当に求めるものを調査し、取得する種類を精査することも必要。 ・学校教育自己診断の質問内容は、学年ごとにその学年に合ったものに変えてみてはどうか。そうすることで、さらに有効にアンケートが活用できるのではないかと。 ・インターンシップ参加人数が増えているのはいいこと。ぜひ継続実施を。 ・生徒は以前より多様化している。対応にへの努力を期待している。</p> <p>第3回（平成28年2月3日） ・学校教育自己診断は、まず教職員の提出率を100%にすること。また生徒・保護者と教職員の意識の乖離が気になる。それが一目でわかる資料の作成を。 ・PDCAサイクルが一目でわかるような評価・様式にすべき。中期的目標は、設定した年度の数値がわかるように。 ・資格取得については、①企業が求める資格の調査・追求 ②積極的な挑戦そのものが大切 の両面から今後の方向性を検討すべき ・インターンシップは非常に重要。今後も積極的に推し進めていただきたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 豊かな社会性をもった人間の育成	<p>(1) 相手を思いやる人権感覚豊かな優しい心の育成と社会の秩序・ルールを進んで守る規範意識の醸成</p> <p>ア・「笑顔のあいさつ運動」の推進 ・遅刻指導の推進</p> <p>(2) 美化・清掃活動の強化を通じた、個々の生徒の規範意識と情緒の安定の醸成</p> <p>ア・全校的な美化・清掃活動</p> <p>(3) グローバル人材の育成</p> <p>ア・海外の高校と積極的に交流</p>	<p>ア・毎朝校門で校長と教職員が実践するとともに、集会のたびに必ず「笑顔のあいさつ運動」を取り上げ生徒の意識を喚起する。</p> <p>・遅刻の撲滅をめざし、生活指導部と学年による早朝登校指導を実施する。</p> <p>ア・美化・清掃活動に全校で取り組む中で、生徒の規範意識と情緒の安定を醸成する。</p> <p>ア・海外の複数の高校との交流を定期的に実施できるようにする。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「あいさつ」への肯定率45% (平成26年度44%)</p> <p>・遅刻数600以下の維持(平成26年度562)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の「校内美化」に関する項目における満足度63%(平成26年度62%)</p> <p>ア・交流実施は2校が目標。また、来日校受け入れの交流だけに止まらず、生徒の海外研修等も計画。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断「あいさつ」項目 肯定率47.6%(◎)</p> <p>・遅刻数12月末現在438人(昨年同期453人)(◎)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断「校内美化」項目 肯定率61.3%(△) *保健部主導等で啓蒙及び生徒組織強化等検討必要</p> <p>ア・交流実施は4校(12.31現在)。生徒の海外研修をキャリア教育の一環として実施決定。(H28年12月。台湾2泊3日。H27年12月下旬見済)(◎)</p>
2 確かな学力への取り組み	<p>(1) 進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「分かる授業・充実した授業」をめざした授業改善等への取り組み</p> <p>ア・基礎学力の充実 ・授業改善の推進</p>	<p>ア・学校設定科目「基礎教養」を設け、授業内容の精選を図りながら、基礎学力の充実に努める。その際、「基礎教養」を担当するために新たに設けた教科を中心に、教材の開発や授業形態の工夫などについて組織的に取り組む。また、進学予定者に対しては進学後の学力保障のための取組を推進する。</p> <p>・教員相互の授業見学をさらに充実させ、授業公開期間中に若手教員を中心とする“授業力向上に関する”勉強会を実施し、若手教員の育成の場とする。また、生徒向け学校教育自己診断の「授業の工夫」に関する項目および生徒による授業アンケートの結果から見えてくる課題について各教科・系で検討し、授業改善に反映させる。</p>	<p>ア・「基礎学力診断テスト」における最下位層の人数の減少</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の「学力の向上」に関する項目における肯定率80%(平成26年度79%)</p> <p>・就職一次内定率77%(H2675%)</p> <p>・進学予定者への補・講習の実施率50%(平成26年度31%)</p> <p>・英検講習の開始 最低5人(平成26年度 実施なし)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の「授業の工夫」に関する項目における肯定率67%(平成26年度66%)</p>	<p>ア・「基礎学力診断テスト」最下位層257人(H26同学年263人)(○)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「学力の向上」項目 肯定率78.9%(△) *「基礎教養」充実施策検討等課題</p> <p>・就職一次内定率86.7%(◎)</p> <p>・進学予定者への補・講習実施率53.8%(○)</p> <p>・英検講習開始5人。さらに城工を校内受検会場として4人参加(◎)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「授業の工夫」項目 肯定率68.4%(◎)</p>
3 ものづくり教育の充実	<p>(1) ものづくりのための実践的な技術力向上への取り組み</p> <p>ア 各種資格取得や検定試験の推奨と講習の充実</p> <p>(2) 生徒のモチベーションの高揚とものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒の育成</p> <p>ア 成果発表の場やさまざまな競技会などへの生徒の参加、および「ものづくり教室」や「出前授業」の充実</p> <p>(3) 地域への貢献と地域に根ざした学校づくりの推進</p> <p>ア・地元企業の協力による学年全員参加のインターンシップの実施 ・地元企業との連携と地域へのさらなる情報発信をめざして設立した「城工メッセ」のいっそうの推進</p> <p>イ 保護者－学校が一体となった学校づくりの推進</p>	<p>ア・保護者からの支持も多い各種資格取得や検定試験をさらに推奨するとともに、そのための講習を充実する。</p> <p>ア・成果発表の場やさまざまな競技会などに積極的に生徒を参加させるなど、ものづくり教育の充実に努める。また、特色ある工科高校の施設・設備や人材の活用を図り、「ものづくり教室」や「出前授業」、さらに「城工房の新店」を小・中学校や行政機関と連携して実施し、そのことを校外にも積極的に発信する。それらの活動を通し、ものづくりの大切さと、ものづくりニッポンの担い手であるという自覚を促し、ものづくりに興味・関心・誇りをもつ生徒を育てる。</p> <p>ア・一つの学年の生徒全員をインターンシップに参加させることで、職業意識を確立させる。</p> <p>・地元企業との連携と地域へのさらなる情報発信をめざして設立した「城工メッセ」をさらに推進することにより、地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。</p> <p>イ・保護者のものづくり教育への理解を深めるために、石焼き芋器の製作など、本校PTAと連携した事業に取り組む。</p>	<p>ア・資格の取得者や検定試験の受験者数(平成26年度1220人)及び合格率(平成26年度73%)の維持</p> <p>ア・成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数(平成26年度12回)の維持</p> <p>・生徒向け自己診断「専門科目への取組」肯定率75%(平成26年度73%)</p> <p>・生徒向け自己診断「資格所得」への積極度31%(平成26年度29%)</p> <p>ア・生徒及び協力企業へのアンケートによる評価</p> <p>・「城工メッセ」の取組み状況及び企画委員からの地域貢献に寄与した旨の評価の獲得</p> <p>イ・PTAと連携した事業の実施状況とPTA役員による評価</p>	<p>ア・受験者数1056人、合格率71%(△) *資格取得への積極的挑戦推奨とともに企業が求める資格の調査・精査が必要</p> <p>ア・国事業に関する成果発表はH26年度事業終了。代わって国財団への論文発表(本賞受賞)、焼芋器を活用した地域イベント協力、「城工房」の子育て支援センターへの出向等で実施回数は維持 合計13回(○)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「専門科目への取組」関係項目 肯定率66.1%(△) *系ごとに今後課題検討必要</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「資格取得積極度」関係項目34.1%(◎)</p> <p>ア・生徒アンケート肯定率(約)70%、企業の反応概ね良好(全企業から今後も受入れ可能な回答)(○)</p> <p>・「城工メッセ」は※企画委員提言や鴻池ジャズフェスティバル実行委員会と学校との相互協力等で来場者数昨年比70%増(◎) ※地元企業代表者、自治会、城工OB等で構成</p> <p>イ・石焼き芋器は文化祭PTA販売等でも活用。保護者対象実習体験(うちわ作製)参加者前年度比1.3倍(◎)</p>